

〔更科日記〕ましもと云所もするくとすきて、いみじくわづらひ出て遠江にかゝる、さやの中山など越けんほどもおぼえず、いみじくくるしければ天りうといふ川のつらに、かりやつくりまうけたりければ、そこにて日ごろすぐるほどにぞやうくをこたる、冬深くなりたれば、河風はげしく吹上て、たへがたくおぼえけり、そのわたりしつゝはまなの橋についたり。

〔海道記〕十二日○貞應二年、天中川をわたれば、大河にて、水面三町ばかりあれば、舟にて渡る、はやく波さかしくて、さほもさしえねば、大なる机をもちて、よこざまに水をかきてわたる、かの王霸が忠にあらざれば、浮沱河済むすべきにあらず、張博望が牛漢、浪にさかのぼりけん、浮木のふねのかくやとおぼえて、

よしさらば身をうきゝにて渡りなんあまつみそらの中川の水

〔東關紀行〕天龍と名付たるわたりあり、川ふかく流れはげしくみゆ、秋の水みなぎり来て、舟のさること速なれば、往還の旅人、たやすくむかひの岸につきがたし、此河みづまされる時、ふねなども、をのづからくつがへりて、底のみくづとなるたゞひ多かりと聞こそ、彼巫峽の水の流、おもひよせられて、いと危き心ちすれ、しかはあれども、人の心にくらぶれば、しづかなる流ぞかしとおもふにも、たとふべきかたなきは、世にふる道のけはしき習ひ也。

此河のはやき流も世中の人の心のたぐひとは見ず

〔白氏文集〔諷諭〕太行路

太行之路能摧車、若比人心是坦途、巫峽之水能覆舟、若比人心是安流、人心好惡苦不常、好生毛羽惡生瘡、與君結髮未五載、忽從牛女爲參商、古稱色衰相棄背、當時美人猶怨悔、何況如今鸞鏡中、妾顏未改君心改、爲君薰衣裳、君聞蘭麝不馨香、爲君盛容飾君看金翠無顏色、行路難難重陳、人生莫作婦人身、百年苦樂由他人行路、難難於山險於水、不獨人間夫與婦、近代君臣亦如此、君不見左納